

家庭教育通信

第9号 平成21年8月11日発行

<テーマ> 少子化時代の子育てと兄弟姉妹関係

近年、少子化が進み、平均出生数が2人に満たない状況が続いています。これは、子どもがいない、もしくは1人っ子が2人兄弟の家庭が多くなったということです。

少子化の時代、幼児期の子を育てる親にとってどのような問題があるのでしょうか？

1人目の子と親の関係

1人目の子は慎重な性格であることが多いといわれます。親にとって初めての子育てなので、大事にし、緊張しながら手探りで育てるからかもしれません。

核家族で母親が専業主婦の場合、日中は2人だけということも多く、母子が密着した関係になりやすいといえます。

このような密着した関係の中、親はこどもの発達が必要以上に気になったり、こどもは親の反応に敏感になったりと、お互い一対一の関係に行き詰ることがあるかもしれません。

そんなときには、家庭外で他の人とのかかわりをもつことは良い刺激になります。こどもにとっては楽しさを共有したり、けんかをして仲直りするなど、人との距離感を体験することができ、親にとっても違う視点からこどもと向きあう機会になります。

弟(妹)ができたとき

第2子の誕生は家族にとってうれしい体験です。けれども上の子にとっては、母親との密接な関係が崩される危機と感じられる体験でもあります。弟(妹)は親の愛情を奪うライバルと思え、赤ちゃん返りをしたり、自分に親の注意を向けさせる振る舞いをする場合があります。母親は、上の子に対し、兄(姉)として接してしまいがちですが、こどもは自分の立場を受け入れるのに時間がかかります。

家族の協力を得て上の子とかかわる時間を持ち、大事に思っていることを伝えるとともに、下の子の面倒を一緒にみてもらい、兄(姉)の自覚を育てていくことが大切です。

自分が認められる体験が弟(妹)を大事にする気持ちにつながり、下の子も上の子を見習うようになります。

少子化時代の兄弟関係

兄弟関係のなかで、こどもは、自己主張や協調性など対人関係の土台を身につけていきます。少子化時代の今日、兄弟的なかかわりの場を家庭のなかだけでなく、地域のなかで広げていくことが大切です。